

日本有機農業学会 第24回大会
「地域セッション」
(第49回摂大農学セミナー)

～大阪都市圏における有機農業の現在地～

報告要旨集

主 催 日本有機農業学会

共 催 摂南大学農学部先端アグリ研究所

【開催日時】 2023年 12月10日 (日) 9:30 ~ 11:30

【開催方法】 無料・一般公開

【会場】 摂南大学枚方キャンパス8号館8210教室 (大阪府枚方市長尾峠町45-1)
オンライン (Zoom) 参加も可能です。

【プログラム】

9:30 ~ 9:40 座長解題 摂南大学農学部 准教授 谷口 葉子

第1 演題

9:40 ~ 10:00 前払い制によるCSA の取組み、能勢エリアにおける
有機農業の地域的拡がりについて
成田ふぁーむ 代表 成田 周平

第2 演題

10:00 ~ 10:20 都市近郊の里山で『有機農業』を实践する。
地域事業者と連携する都市近郊有機農業者の創意工夫
ひらかた独歩ふぁーむ 代表 大島 哲平

第3 演題

10:20 ~ 10:40 私たちのみどり戦略—消費者・流通 (生協) と
農家の協同で有機農業を拡げる
コープ自然派事業連合 副理事長 辰巳 千嘉子

10:40 ~ 11:00 コメンテーター 大阪府農政室推進課 課長 溝淵 直樹
コメンテーター 京都府立大学生命環境学部 准教授 中村 貴子

11:00 ~ 11:30 質疑応答・ディスカッション
座長総括

第1報告

前払い制によるCSAの取組み、能勢エリアにおける有機農業の地域的 拡がりについて

成田ふぁーむ 成田 周平

1. 自己紹介
 - ・ 農業を始めるきっかけ
 - ・ 能勢町、原田ふぁーむでの研修で有機農業を学ぶ。
 - ・ 独立就農から現在に至るまで
2. 能勢町における新規就農者の実態について
 - ・ 原田ふぁーむ、尾崎氏、北摂協同農場、道の駅「栗の郷」での研修生が独立
 - ・ 独立した研修生が、また研修生を受け入れ独立させるという流れ。
 - ・ 能勢町で新規就農者が増える理由、課題も・・・
3. のせすく（CSA）を始める経緯
 - ・ みどりの食料戦略システムの発表
 - ・ おおさかNO-1グランプリの開催
4. のせすく（CSA）を取り組んでみて
 - ・ のせすくの現状
 - ・ 消費者からの反応
5. 今後について

プロフィール

成田ふぁーむ
代表：成田周平
所在地：大阪府豊能郡能勢町
栽培面積：250a（露地180a、施設20a、水稲50a）※有機JAS認証180a 水稲は減農薬栽培
栽培品目：レタス、サニーレタス、大根、トマト、ミニトマト、ズッキーニ、オクラ、きゅうり、翡翠ナス、ピーマン、モロッコインゲン、ブロッコリー、人参、こかぶ、ビーツ、小松菜、ほうれん草、青ネギ、菊芋、にんにく
玉ねぎ、ジャガイモ

第2報告

都市近郊の里山で『有機農業』を实践する。 地域事業者と連携する都市近郊有機農業者の創意工夫

ひらかた独歩ふぁーむ 大島 哲平

1. 自己紹介（事業概要について）
2. 自己紹介（農場の立地、周辺環境について）
3. 自己紹介（栽培について）
4. 地域事業者と連携する都市近郊有機農業者の創意工夫

地域や社会課題解決に向けた取組みに「農業者」としてアプローチしている。それは、中長期的な事業継続に関する事柄であり、自分の人生を掛ける「仕事の意味」とその先を意識した取組みと考えている。とはいえ、日々の農作業に追われる小規模事業者としては、様々な新しい取組みに単独で対応することは不可能。なので、同じ課題に対する問題意識を持ち、同じ方向で進める仲間（事業者）とそれぞれの得意分野で連携、協力している。

プロフィール
ひらかた独歩ふぁーむ 代表：大島 哲平 所在地：大阪府枚方市穂谷地区 栽培面積：約2ha 栽培品目： <ul style="list-style-type: none">・ イタリアントマト（露地夏秋）・ ホウレンソウ、小松菜、水菜等（施設周年）・ その他旬の露地野菜

例：

- ・ 大きな社会の持続可能性…気候変動、生物多様性
 - ・ 小さな社会の持続可能性…地域集落の衰退、里山（国土）の荒廃、文化の消失
 - ・ 個々の人間の持続可能性…心身の健康、デジタルによる感性の喪失危機
-
- ・ 農業×加工×サービス…(株)和幸、(株)カンパイカンパニーとの「奥ひら」の活動
 - ・ 農業×福祉…Defa、(株)クミアワセ、(株)カンパイカンパニーと「枚方穂谷ソーシャルファームプロジェクト」
 - ・ 農業×地域未活用資源…穂谷区竹林整備委員会、(株)アトリエMAYと「竹チップ+淀川ヨシ+αの堆肥化」
 - ・ 農業×山林…(社)山守と「行きつけの森づくり」
 - ・ 農業×教育（学びの場）…(株)サムズと「地域農業スクール」、 「摂南大学農学部食農ビジネス学科」
 - ・ 農業×企業福利厚生…(株)パソナ農援隊と「Wellness Farm Club」
5. 農業者として大切にしていること、有機農業者だからできること
 - ・ ”ゲリラ”であること、少数派であるからこそ見える世界。
 - ・ 農の価値の探求…環境、防災、福祉、雇用、健康、教育、文化、美術

第3報告

私たちのみどり戦略 一消費者・流通（生協）と農家の協同で有機農業を拓げる一

コープ自然派事業連合 辰巳千嘉子

1. コープ自然派の有機農業運動の進化～理念に基づく運動と連携した事業

- 1) はじまりは共同購入会：公害病、食品公害から動き出した有機農業運動と連携する産直
- 2) 「国産派宣言」（2006年）：「食」と「農」と「環境」は一体＋食料主権を守る（2010年ごろ～）ネオニコ系農薬・グリホサート問題・規制緩和＝国産では不十分
- 3) 「誰もが有機農産物を食べることのできる社会をめざして」

2. 私たちのみどり戦略「誰もが有機農産物を食べることのできる社会をめざして」

- ・有機農家の生産を持続可能なものにしつつ、いかに安く組合員に提供できるか
- ・生態系も健康（内なる環境）も守る食生産の価値を知って支える組合員を増やす

1) 有機農家を増やす、高品質・多収穫・高栄養価の栽培技術

→「有機の学校」設立

とくしま有機農業サポートセンター（徳島）、ORGANIC SMILE（熊本）

→有機農業推進協議会

各地域の生協が事務局を担い、農家とともに有機栽培講座や実践圃場

2) 畑の都合にあわせて企画する

→産地プロジェクト＋農産中心のカタログプロモーション

生産者の想いを聞いて、いつ、何を、どのくらいの量作れるかを相談する

3) 組合員（消費者）の産直活動

→産地訪問、生産者交流、生産者消費者討論会、オーガニック給食活動

4) 農産物流改革

→産地直接取引、独自物流の構築

5) 協同組合間協同

→JA×生協（地域の有機25%達成を目指す）、生協間連携

6) 「社会福祉法人 コープ自然派ともに」設立

→有機農業による農福連携事業

7) 「一般社団法人 日本有機加工食品コンソーシアム」設立

→農家、企業、団体の有機加工食品原料生産を拓げる実働事業体ネットワーク

プロフィール

コープ自然派事業連合
副理事長：辰巳千嘉子

2005年 コープ自然派奈良理事
2007年 コープ自然派奈良理事長
2019年 コープ自然派事業連合副理事長
2022年 NPO法人ORGANIC SMILE理事
2023年（一社）日本有機加工食品コンソーシアム代表理事